

# 平成28年度 第1回 倉吉市生徒指導対策推進会議

学校教育課

## 1 目的

倉吉市立小中学校における不登校等生徒指導上の諸課題について、各学校の教職員による情報交換及び協議を行い、課題解決に向けた学校体制づくりを推進する。

2 講師 井上 雅彦 氏（鳥取大学大学院医学系研究科臨床心理学講座教授）

3 対象者 倉吉市立小中学校 管理職、生徒指導担当者 等

4 実施日 6月2日（木）14：00～16：45

会場 上井公民館 第1研修室

5 主催 倉吉市教育委員会学校教育課

## 6 内容

### （1）講義「不登校傾向児童生徒の評価と対応」

○講師の臨床経験をもとに、不登校になるきっかけや不登校の実態、また、不登校状態を把握するための評価や対応についてご示唆いただいた。

○学校での不登校対策をシステム化することが大切で、担当者任せにしない学校体制を管理職がリーダーシップをとりながら構築していき、ミニマムでも学校全体がチームとなって取り組んでいくことの重要性をご教授いただいた。

○発達障がいのある子どもは不登校リスクが高いことを認識した上で、予防には「教師の理解」「障がい特性への配慮」が必要であること、また、環境調整なしの回復は困難であり、支援の有無が再発を左右する等、学校側の対応のポイントについて考える機会となった。



### （2）演習「不登校児童生徒の早期対応体制づくりについて」

○「学校での不登校対策チェックシート」を利用しながら、自校の不登校対応について点検をした。井上先生が示された9つの項目について、4段階で評価し、何ができているのかできていないのかを明確にすることができた。その後、不登校児童生徒への早期対応や支援体制などについて、各校の具体的な取組の発表をしていただき情報交換を行った。

○各学校の過去3年間の不登校児童生徒・長欠の児童生徒の実態データをもとに、各学校の不登校児童生徒の欠席の傾向について確認した。そして、管理職をリーダーとして複数の教員と関係機関が具体的にどう動いていくのかをマトリクス表を記入しながら、学校の体制づくりに迫ることができた。

○井上先生より、「不登校児童生徒の目標を、今のその子にあったスモールステップで立

てていくことの重要性や、それを周りにいる大人が理解して褒めてやることの大切さ、さらには、子どもだけでなく親にもスモールステップで目標設定をし、褒めていくことで良好な関係をつくっていくこと」などをご示唆いただいた。

### (3) 参加者の感想

- 一人ひとりの実態に合わせて、スモールステップで目標を設定し対応していくことが大切であることが分かった。また、不登校の原因は多様であり、早期対応が大切であることを再確認した。
- 不登校は、学年が上がるごとに学力不振が原因になっており、「学校に行って授業が分かるかが大切」ということを聞いて、教師としてやはり「分かる授業づくりと実践」が不登校の未然防止だと感じた。
- 学力不振、発達障がいへの対応として、授業のUD化を個別の対応と併行して行うことが必要だと思った。
- 不登校児童生徒に対して、学校だけでなく専門的な方や外部の方とも連携しながら進めていくことの大切さを感じた。また、「この方法で上手いかなければ次はこれ」というように、あきらめてはいけなかったと感じた。
- 不登校対応チェックシートの演習を通して、対応したり体制をつくったりしていることをまとめることができ、何ができていて何がもう少しなのかを明確にすることができた。対応が上手いっているのか、もし上手くない場合は何故かを分析することの必要性が分かった。
- 他校の取組も聞き参考になった。自分の学校でできることも考えながら取り組んでいきたい。
- 個の支援をしていくときに、保護者特に母親をしっかり支えていくことが大切だと感じた。チーム支援の中で、そのことをきちんと位置づけていきたい。

